

# 共生社会の実現に向けた、地域と共に歩む教育活動の推進を目指して ～令和5年度「あいcircle」の推進について～ 北海道札幌あいの里高等支援学校 学級数 25 (校長 伊藤 友紀)

## □ 実践の概要

新型コロナウイルスによる学習制限の緩和を受けて、地域販売会「あい circle」の再開に向けた検討を進めた。目的や内容等の再確認することや、コミュニティ・スクールを活用し、本校の教育課程の特色である「地域と共に歩む教育活動」の具体化に向けて取組を推進した。

## 1 実践の目的

- (1) 地域（札幌市北部）の町内会や振興会、学校関係、福祉関係及び企業等が効果的に連携する。
- (2) 共生社会の実現に向けた取組として、本校生徒だけでなく地域の関係者全ての人のための活動として令和5年度「あい circle」を実施する。

## 2 実践内容

### (1) 実施計画

- ・平成31年度から令和元年度までは、年間6回実施
- ・令和2年度から令和4年度までは中止
- ・令和5年7月22日（土）、11月11日（土）に実施

### (2) 取組の具体

#### ① 職員研修

「社会に開かれた教育課程と地域との協働」というテーマで研修し、地域との協働に向けて考えるべきことについて、教職員間で共通理解を図った。

#### ② 学校運営協議会での検討

令和4年度から「あい circle」の実施に向けて検討を進めた。地学協働アドバイザーの講話により、学校運営協議会について理解を深めた。「あい circle」の実施に向けて協議をする中で、地域と学校がそれぞれ検討を重ね、地域と学校相互にとっての効果的な連携について方向性を確認した。

#### ③ 学校間の連携

共催により北海道教育大学札幌校と連携体制を整え、本校生徒が主体となり活動する中で、学生と協働しながら運営業務を推進した。市立札幌豊明高等支援学校、北海道医療大学及び池上学院グローバルアカデミー専門学校の協賛も得ながら運営を行った。

#### ④ 地域の協力

拓北・あいの里連合町内会の協力で、町内会回覧板を活用した広報活動を行った。また、地域の店舗等の協力でポスター掲示等の広報活動を行った。合計18の協賛企業等がブース出展し、7月は750名、11月は400名の来場があった。

### (3) 取組後の点検・評価、工夫改善

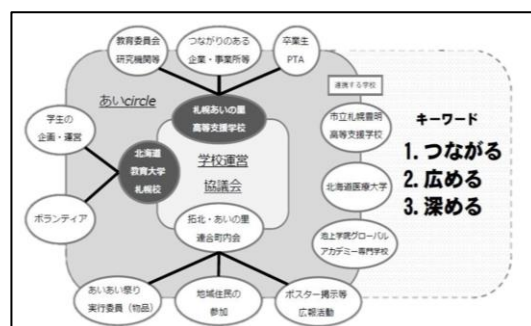
7月は学校関係者が中心の運営となったが、11月は広く地域に参加を呼びかけるなどの改善を図った。

### (4) 改善後の取組

今年度の反省と次年度の計画について、11月の学校運営協議会で検討した。

## 3 実践のポイント

- ・学校運営協議会を中心に検討を進めたことで、関係者の連携が円滑になり、目的や方向性を共通理解しながら、それぞれの立場での役割を果たすことができた。
- ・本校生徒、出展者、来場者のアンケートから、「あい circle」の満足度が高かったことから、初期の目的を達成することができた。また、「つながりの大切さ」を実感するコメントが多く寄せられた。
- ・地域への認知度が広がり、第2回「あい circle」の計画を推進する中で、地域の方から参加希望があり、新規参入していただく企業や団体が増加した。
- ・事前学習から、大学生が本校授業に参加し運営業務を一緒に行うなど、高大連携の取組を推進できた。



【学校運営協議会組織図】